

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

生活の中の課題を見付け、解決する力の育成

ー習得した知識や技能を生活に活かす、題材設定の工夫と評価の改善ー

2 成果（○）と課題（●）

(1) 題材設定と計画の工夫

○今年度も住生活の内容においては、モデル家族とその住まいを設定し、問題解決学習を行うことができた。研究グループでのアドバイスもあり、様々な家族形態とその住まいを設定することで、より選択肢を持って学ばせるとともに、家族とともに住まいとその問題が変化していくことに気付かせることができた。

○住生活の問題解決において体験的な学習を実施し、実感を持った理解につなげることができた。これらの活動の後に行ったパフォーマンス課題や生活の課題と実践「我が家の住まい改善」でも、これらの活動の経験をもとに家族や住まいに合った方法を考える記述が多く見られた。

ア. 高齢者体験と幼児体験の実施

この体験活動を通して、家庭内事故が起こりやすい原因や、より安全で快適に住まうためにどのような住環境の工夫や配慮が必要なのかを実感させることができた（写真1）。



写真1 高齢者体験の様子

イ. 災害対策の家具固定のモデル実験

地震対策を考える授業では、愛媛大学教育学部4回生が作成した住宅モデルを用いて、家具固定のモデル実験を行った（写真2）。耐震ポールと耐震マットの固定強度の違いだけでなく、荷物の置き方や揺れに伴う家具の転倒の様子について実感を持って学び、モデル家族や自身にあったよりよい家具固定の方法を考えることができた。



写真2 家具固定のモデル実験

●他教科との連携や内容の精選については、ほとんど実践することができなかった。

[住生活の学習後の生徒へのアンケート結果より]

本題材の学習終了後にアンケートを行った。（R6年2月2年生 118名）

「1. 学習を通して、住まいの安全性について考える機会が増えたと感じたか」「2. 学習活動中に、自分の意見やアイデアをグループ内で自由に表現できたか」「3. 自分自身で問題を発見し、解決策を考え出すことができたと思うか」「4. 活動を通して、自分の学びの過程を振り返ることはあったか」「5. この学習活動で学んだことを、自分の家庭や日常生活で実践することはあるか」のすべての問いに対して、9割の生徒が「とても思う、思う」と答えており、学習の目標は達成していると思われる。また、質問2・3の結果から、主体的に課題解決に取り組むことができたと捉えている生徒が多いことが分かる。しかし、質問2の「どちらとも言えない」が4人、「思わない」が1人おり、これは意見表現の場においてさらなる支援や促進が必要であることを示唆している。一部の生徒は意見表現において不安を感じている可能性があり、全体的な意見の自由度や表現の機会に改善の余地がある。

「6. 住生活の学習で、特に印象に残った、役に立ったと思う内容はどれか。【複数回答】」という質問では、防災で行った住まいモデルを用いた家具固定の実験（99名、84%）や家庭内事故の実証で行った高齢者・幼児体験を選んだ生徒（71名、60%）が多くなっている（表1）。このことから、体験的な学びを通して学ぶことの重要性が分かる。また、生活の課題と実践として行った「我が家の課題解決」の計画や実践発表会（65名、55%）が3番目に多く選んでおり、学習を通して得た知識などを実践に生かすことで、学習をより自分事として取り入れたり、友達の実践の発表を聞いたりすることで、より関心を高める機会になったと思われる。自由記述でも、同様の結果が得られた。

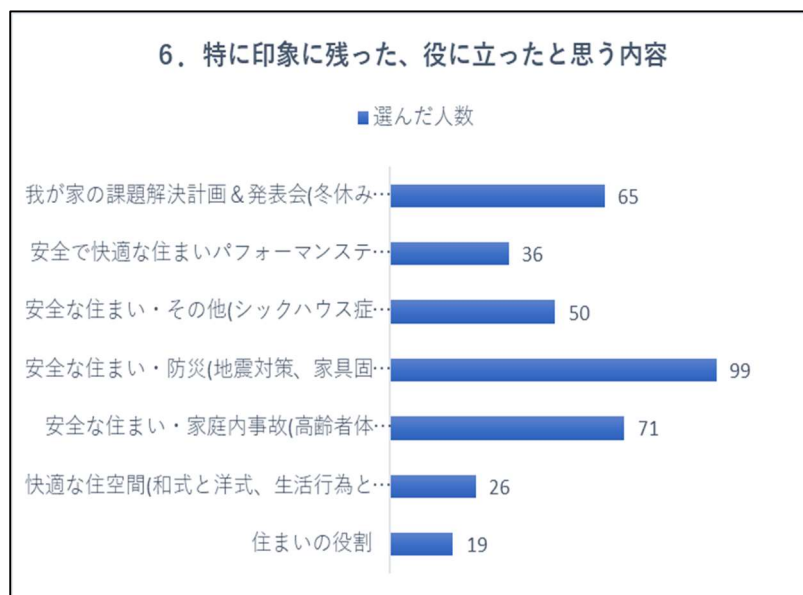


表1 アンケート結果のグラフ【質問6】

(2) OPP シートの改善と活用

○題材の始めと終わりにイメージマップを書かせることができた。3分という短時間で記入するため、十分に内容を書き出すというより直感的に浮かんだことを書いている。生徒自身が、記入内容の違いを感じているように、安全に関する記述が増えていることが分かる。

●毎時間の記入の手間を減らすために、毎時間のワークシートやデジタルワークシートをテンプレートに貼り付けていくことでOPPシートとして活用した。生徒の負担軽減となったが、毎時間の振り返りを十分書かせられていないこともあり、毎時間の生徒の課題意識の把握につなげられず、指導につなげるための評価としては不十分であった。来年の取組については見直しが必要である。

3 次年度に向けて

今年度の課題である他教科との連携やOPPシートの見直しについては、今後より丁寧に計画し、行っていく必要がある。

今年度の研究授業や研究グループでPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）について教えていただいた。家庭分野の学習にとって、適切な手法であると感じたので、研究に取り入れていきたい。また、生徒のアンケート結果より、実践的、体験的な学びの有効性を強く実感することができた。今後も、自らの経験から学ぶ機会を多く取り入れ、自分事として問題を見いだして課題を設定し、解決に向けて行動を起こすエージェンシーの育成に努めていきたい。そのために、グループディスカッションやプレゼンテーションの機会を更に増やし、生徒が自らの考えを積極的に共有しやすい環境を整えていきたい。